

<第3号議案> 2014年度(2014年4月1日~2015年3月31日)

特定非営利活動法人 ぐらす・かわさき 活動計画

■2014年度の方針

2014年度は第4期中期計画(2013~2015)の2年目です。これまでの基金に依存した計画を脱却して、基金に頼ることのない事業計画へ移行します。

「遊友ひろば」は今年の8月で、開設から10周年を迎えます。遊友ひろばの運営をひろば運営委員会(ボランティア体制)に変更し、赤字にならない事業運営の見通しに基づいて、今年度は継続し、来年度の継続に関しては、今年度の運営の状況を勘案し、検討します。

「メサ・グランデ」は開設から丸2年が経過し、コミュニティカフェ創出支援の場としての実績を積み上げながら、食と農の地域交流拠点としての役割を果たしていきます。夜の営業実績がまだ不振であることから、2年目も赤字を出してしまいましたが、人件費削減、メニューの工夫によるロスの削減に努めながら、プロの調理経験者の採用による売上改善、夜間は貸出事業へのシフトを行い、メサ・グランデの使命と役割を十分果たす計画としました。1年目、2年目で成し遂げられなかった黒字化を、再度やり方を変えて挑戦します。ワンデイシェフ・レンタルスペースなどが川崎市創業支援事業計画として認定されたこともあり、市内の他の創業支援事業とも連携しながら、市民が必要な事業は市民で作る、という意気込みで、創業希望者へのサポートに取り組んでいきます。収支状況によっては、年度途中での方針見直しも検討します。

昨年度、設立に至らなかった「かわさき市民ファンド」は、今年度中の設立を目指します。

事業の核となる事務局の機能を、多摩区登戸の「遊友ひろば」内から中原区新城の「メサ・グランデ」内に一元化し、管理コストを抑え、少人数で効率的に行います。

ぐらす・かわさき全体の流動資産が約900万円となり、底をついてきています。今年こそが正念場と覚悟し、単年度の黒字決算を目指します。

■2014年度事業内容

(1) 市民活動を支援するための事業の企画・実施(定款第5条(1))

地域市民ファンド設立準備事業(担当理事:江田・町田、スタッフ:広岡) 事業規模 840千円

目的:市民の想い(共感)を表すお金(志金)と、地域の課題を解決しようと活動している団体とをつなぐことで、暮らしやすい「かわさき」を生み出していく。

概要:他の様々なセクターと協力しながら、新しく財団法人をつくり、市民の寄付金の受け皿であり、川崎全体の市民活動を応援する仕組みをつくる。

本年度の目標:9月に設立準備会を立ち上げ、準備会で500人の賛同人(出資者)と財団設立のためや準備に必要な500万円の賛同金(出資金)を集め、2015年3月の財団設立を目指す。

そのための助成金などの確保に努力する。

高津区「たちばな農のあるまちづくり」推進事業 事業規模 1,998千円

(担当理事:岸田、田代 スタッフ:田代、吉田、東)

目的:高津区、特に橘地区における地域資源を活用した地域レベルからの地元意識・ふるさと意識の醸成に寄与するとともに地域活性化に寄与する取り組みを、市民と区の協働で行う。

概要:前年度同様高津区からの委託を受け、「たちばな農のあるまちづくり推進会議」の運営および

び、今後の自立化に向けて、これまで取り組んできた「高津 さんの市」、農体験イベント、援農、「野菜料理のレシピ集」作成に取り組む。

本年度の目標：各事業の戦略を強化し、参加者数の増を目指す。推進会議での委員間の意識の共有を図る。「高津 さんの市」：年間5回。「育てて食べよう！マイ・ベジタブル〜」：植ええから収穫までシリーズ開催。「援農」：毎月1回開催。「視察ツアー」：黒川に1回開催。「写真展」・「フォーラム」：3月開催。

(2) コミュニティビジネス(CB)を支援するための事業の企画・実施(定款第5条(2))

メサ・グランデCB支援事業(担当理事：竹林・田代、スタッフ：佐藤・田代・東・吉田)

事業規模 6,123千円

目的：地域に必要な仕事を地域で起こすための人材の育成

概要：ワンデイシェフ、チャレンジシェフ、レンタルキッチン&スペース・コワーキングカフェ、コミュニティカフェ開設講座を実施する。それら事業が、「川崎市創業支援事業」に認定されたことを受け、さらに創業支援事業者補助金の対象事業に採択された。市内の他の創業支援事業と連携しつつ、取り組む。メサ・グランデの飲食店機能の繁忙時間以外を有効活用し、「コミュニティビジネス相談事業」とも連動しながら、専門家の紹介を含めた個別・ハンズオン支援を行い、創業の実現につなげていく。

本年度の目標

- ・ワンデイシェフ：これまでよりもシェフに使いやすい価格設定とコンサルティングの充実を図る。土日曜日に実施。20名利用 2名起業を目指す。
- ・チャレンジシェフ：昨年度の運用の反省を活かし、平日毎日、夜間の営業を2か月で1クールとして実施。ワンデイシェフ同様、価格の見直しと、コンサルティングの充実を図る。平日18時~21時半の営業体験をしてもらう。5名利用 2名起業を目指す。
- ・レンタルキッチン&スペース・コワーキングカフェ：平日昼間のランチタイム以外の時間・スペースを有効活用するもので、カフェという多様な人が出入りする空間で、地域の主婦を主な対象とし、ビジネスチャンスをつかむ、広げるきっかけの場としてもらう。コンサルティングの充実を図る。 固定的に10名程度のフリーランスや創業期の起業家等に活用してもらう。
- ・コミュニティカフェ開設講座：地域のたまり場・居場所づくりのサポートを継続する。6回程度の連続講座を開催し、起業や本格的な起業準備につなげる。 1名起業を目指す。

川崎市コミュニティビジネス振興事業(担当理事：竹林、スタッフ：田代・佐藤)

事業規模 2,000千円

目的：市民のコミュニティビジネスやソーシャルビジネスに対する関心を高め、それらに就業・創業したい人や、すでにそれらの事業を行っている事業者への支援等を通して、市域でのコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの振興を図る。

概要：前年同様、川崎市の委託を受け、コミュニティビジネス振興事業を実施する。相談窓口業務はメサ・グランデ店頭看板を設置。また、専用電話回線、メールアドレス、ホームページを整備し、相談の問口を広げ、専門アドバイザーとの連携体制を構築し、相談者へのフォローを強化する。また、コミュニティビジネス支援セミナーの開催、メルマガでの情報発信も継続する。

本年度の目標：「メサ・グランデ」という常設の起業支援の場があるということを活かし、起業実績を増やすことに注力する。相談対応数の目標件数：50件、起業目標数：2件

(3) 子育てを支援する場所の運営及び関連事業の企画・実施（定款第5条(3)）

川崎市地域子育て支援センター 事業規模 3,820千円

(担当理事：池畠、スタッフ：広岡・小林・鈴木・手塚・山下・勝呂)

目的：「場」を通じて、子どもにとって友だちができること、お母さんにとっても仲間と出会えること、このまちに住む人にとっても、子どもたちのことを考え交流できることを目的とする。

概要：昨年に引き続き、市内のこども文化センター内で、週3日午前中、未就園児とその保護者向けのサロン事業を2館において実施する。枳形こども文化センターにて月・火・水曜、大戸こども文化センターにて月・火・木曜日に実施（各区からの委託事業）。お母さんグループの支援を行う。さらに今年は委託契約の3年目となり、次年度以降の受託に応募するかどうか、できるだけ当事者のお母さんたちが主体的な関わり方ができるようなかたちで、方向性を検討する。

本年度の目標：目的にそった事業を継続するのに加え、これまでの経験から見えてきた、今の親子にとって大事な支援とは何か、現在の子育て支援センターの役割などを市へ提案しながら、次年度につなげていく。

多摩区・中原区子育て支援会議、多摩区・中原区子ども総合支援連携会議等への参加

(4) 市民が交流する場所の運営及び関連事業の企画・実施（定款第5条(4)）

遊友ひろば事業（担当理事：池上・町田） 事業規模 3,258千円

目的：幅広い世代の住民の交流を促進し、周辺地域のコミュニティを活性化する。

概要：ひろば運営に関心のある会員有志が運営委員会を開催。各種担当を置き、メーリングリストと月例会議（毎月末ごろ）を通じて情報共有、意見交換、運営の調整をする。

本年度の目標：(1)利用者層の拡大 (2)単年度黒字化達成(寄付金 308千円確保)

地域住民等への活動場所の提供 担当ボランティア：池上

概要：・キッチン付き貸スペース... 1時間 1,200円（うち200円たままで使用可）。新規利用者が2時間以上利用する場合は初回1時間無料特典を実施。

・荷物保管用引出し（1カ月500円）

・手紙およびFAXの受け取り場所としてのレターボックス（1カ月300円）

・壁面掲示・チラシラック等を活用した情報提供（地域の市民活動・行政等の情報）

本年度の目標：貸スペースの新規需要発掘、チラシ管理の効率化と閲覧性向上。

健康麻雀 担当ボランティア：町田・瀬川・志村

概要：主な参加者である年配者が、麻雀を通して地域の人と交流をし、自然に頭や指先を使うことで、心身の健康の促進を図る。

初級者サロン（火曜13時～17時）1回1200円、健康麻雀サロン（金曜10時～15時）1回1500円。いずれも500円たままで使用可。

本年度の目標：(1)火曜・金曜とも卓数4（16名参加）(2)初級者サロンの新規参加者拡大

親子ひろば 担当ボランティア：粕谷・鈴木俊輔

概要：第2～5水曜日（4月より曜日変更）10時半～14時。

基本参加費 300 円（4 月より 100 円値上げ。100 たままで使用可）

利用者の希望に基づく多彩な講座等イベントを実施（別途イベント参加費を徴収）し、地域の子育て中の親が知り合うきっかけの場づくりをする。

本年度の目標：(1)ボランティア運営体制の強化 (2)事業単独での赤字解消(家賃分を除く)、
マクロビオティック料理教室 担当ボランティア：鈴木和子・宮下・町田

概要：第 1 水曜日・土曜日開催。利用料 1 回 2500 円（1 回につき 100 たままで使用可）。季節料理、行事をとりいれつつ、体調に合わせたメニューをつくるコツを学ぶ。幅広い世代を対象にし、「自然の恵を残さず丸ごといただくこと（一物全体）、暮らす土地の旬のものを食べること（身土不二）」を基本とした料理を学ぶ。

本年度の目標：宣伝をこまめに行い、各回最低でも 5 人程度の参加者を獲得する。

寺子屋 担当ボランティア：町田

概要：小 4～中学生に「わかった！」「やればできる！」という学びの楽しさを伝える。

教科...算数・数学・英語。月曜日開催。1 時間 500 円。講師...地域のボランティア

本年度の目標：小学生、中学生ともに各 3 名程度の参加者増をめざす。

学習会・講座の企画・運営

概要：会員からの企画提案応援を含め、「成年後見人制度の学習会」など、地域で学び合う機会を設ける。

商店街活性化のための活動

概要：依頼があれば、多摩区商店会連合会や登戸東通り商店会の事務補助などを行う。

メサ・グランデにおける八百屋カフェ事業 事業規模 15,740 千円

(担当理事：竹林・田代、スタッフ：佐藤・横山・新堀・青木・清水・西川・東・高谷)

・八百屋事業

目的：地産地消の推進。市内農資源のアピールによる、地元意識の醸成。農と地域住民を結ぶ。

概要：地元野菜・地元野菜を使った加工品・趣旨に合う雑貨等の仕入れ・販売を行う。

本年度の目標：これまで課題であった、売れ残る野菜をカフェの食材として、これまで以上に多量に使い、委託販売に甘んじず、廃棄ロスを削減する。

・カフェ事業

目的：野菜たっぷりの食事の提供により、地域の健康づくり・食育・地域コミュニティを促進。

持続可能な「コミュニティカフェ」の一つのモデルを示す。

概要：・夜の営業を、起業支援の「チャレンジシェフ」事業にシフトすることで、自前のカフェ営業をモーニング・ランチ・喫茶・惣菜に集中して取り組む。

・「貸しスペース」と連動してアイドルタイムを減少させ、モーニングや喫茶の売り上げの向上を図る。

・6 月頃を目途に、メニューのリニューアルを行い、新規顧客を掘り起こす。

・利益率のよい、「惣菜・弁当」の売り上げアップを図る。

・計画的な一括仕入れにより原価の削減を図る。

・人員体制については、調理師経験のあるスタッフを 5 月より入れ、食材回しや工程の効率化と提供する料理全体のレベルアップを図る。稼働日数の少ない地元主婦のパートスタッフが多いため、スタッフ間のコミュニケーションを潤滑にし、効率的な引き継ぎや意識の共有などに配慮し、多様な働き方の実現できる職場として、風土づくりに更に取り組む。

- ・ イベント、学習の機会を設け、地域コミュニティの促進を図る。

「川崎市予算学習会」「まちづくりカフェ」「旧暦のつどい」など

本年度の目標：売上を拡大させる。そのためにはメニュー開発により、特徴あるメニューを打ち出す。また、店内環境を整備し、居心地のよい店づくり、接客技術の向上を図る。新規顧客を呼び込む。

(5) 以上の事業に関わる調査・研究及び情報の収集・提供（定款第5条(6)）

さまざまなグループへの参加と応援

目的：市民活動グループとのネットワークを広げ、市民活動がより活発になるよう参加し応援する。

概要：ぐらす・かわさきの設立母体だった団体のつながりから続いている団体や、新しく呼びかけたり、呼びかけられて参加している団体など、ぐらす・かわさきのミッションにあったグループへ参加し、応援していく。

・ 地域通貨「たま」運営委員会への参加（担当ボランティア：江田）

「たま」運営委員会の事務局を担い、活動に参加していく。ボランティアな活動として、広くぐらす・かわさき会員に呼びかけ、協力を募っていく。

・ 多摩丘陵緑地保全ネットワーク（通称たまよこネット）への会員としての参加

会員として参加し、事務局を応援する。

・ 教育に憲法を活かす川崎市民の会への参加

・ 川崎 NPO 法人連絡会への会員としての参加

・ 「多摩区観光推進協議会」理事として参加（町田）

・ 「NPO 法人セカンドリーグ神奈川」理事として参加（田代）

・ 「かながわ生き生き市民基金」評議員として参加（江田）

・ その他「福島の子もたちとともに川崎市民の会」の協力団体として参加

他にも地域の市民や活動グループからの呼びかけがあった場合は、できるだけ関わっていく。

広報（担当理事：薬袋、担当スタッフ：広岡）

広報においても選択と集中を意識し、WEBの活用を拡大し、ぐらすレターを縮小の方向で、効果的な広報に取り組む。

・ インターネットの活用

ホームページ、ブログ、Facebook など、様々な情報発信を行っているが、専門家のアドバイスを聞くなどしながら、内容の整理をしていき、情報発信方法を工夫していく。

・ ぐらす・レターの発行

人員削減やWEBでの情報発信が期待される時代性もあり、昨年から隔月の発行（年間6回）としたが、今年はさらに1回減らし、年間5回とする。

7月（スタートした事業の紹介など）、9月（経過報告など）、11月（経過報告など）、1月（年賀など）、3月（下半期の報告、総会のお知らせなど）、事業報告のほか、地域の情報・イベント情報、または会員からの問題提起などの投稿を掲載し、会員や関係者に情報提供する。

講師派遣

依頼があればスタッフを講師として派遣し、コミュニティビジネスや市民活動を支援する。

行政などに関わる委員会への参加